

茨城県の高齢者福祉施設における農・園芸活動状況

Agricultural and Horticultural Activities in Welfare Facilities for the Elderly in IBARAKI Prefecture

○藤崎 浩幸* 新田 吏理*

○FUJISAKI Hiroyuki* NITTA Satori*

1 はじめに

野菜や花など農作物の栽培は本来収穫物を得るための作業である。その一方で、これらの栽培は心身の健康を促進する効果もあり、日本においては 2008 年に園芸療法学会が設立されている。一方、2000 年以降、農業の新たな担い手として障がい者等に注目し、農業分野への障がい者等の雇用・就労を通じその自立支援につなげる農福連携が注目されるようになり、2010 年に鳥取県が「鳥取発！農福連携モデル事業事例集」を刊行している。しかし、植物の栽培や農作業(農・園芸活動と呼ぶ)を行う福祉施設は古くから存在し、例えば藤田らは 1999,2000 年に長野県下の福祉施設・医療施設を調査し、農・園芸活動が 52%で実施されていることなどを報告している¹⁾。本研究では、園芸療法や農福連携が広がりつつある状況を踏まえ高齢者福祉施設における農・園芸活動状況について茨城県を対象に把握することとした。茨城県を調査対象に選んだのは全国で唯一県名を付したいばらき園芸療法研究会が存在しているからである。

2 調査方法

藤田らの研究を参考に、施設概要、農・園芸活動に対する考え、農・園芸活動の実施状況などの調査項目を設定した。調査は配布・回収とも郵送で 2023 年 12 月に行った。送付先は茨城県庁 Web サイトの保健医療福祉施設等一覧²⁾に掲載された 2199 施設から 7 種類の施設種別ごとに 50 施設ずつ無作為抽出した 314 施設である(養護老人ホームのみ 14 施設だったので全施設を抽出)。有効回答数(回答率)は 82 件(26%)で、施設種別ごとでは養護老人ホーム 3 件(21%)、特別養護老人ホーム 13 件(26%)、軽費老人ホーム 17 件(32%)、老人デイサービスセンター 9 件(18%)、認知症高齢者グループホーム 14 件(28%)、有料老人ホーム 11 件(22%)、介護老人保健施設 15 件(30%)であった。

3 調査対象施設概要

1 日あたりの施設利用者数は[1-19 人]27%、[20-39 人]17%、[40-59 人]21%、[60-99 人]16%、[100 人以上]17%と小規模な施設から大規模な施設まで存在した。施設職員の資格保有者の状況は[園芸療法士,作業療法士,理学療法士いずれもない]62.5%で、[作業療法士または理学療法士がいる]35%、[園芸療法士がいる]2.5%である。施設立地場所については[市街地周辺]が 46%と多く、次いで[周辺が農地]32%、[市街地内]13%、[自然の中]5%であった。

4 農・園芸活動の実施状況

農・園芸活動の実施状況は[実施中]46.3%、[以前実施]14.6%、[未実施]35.4%であった。他の療法の実施状況は運動療法 65.9%、音楽療法 47.6%、手工芸 39.0%、絵画療法 23.2%、ボードゲーム 22.0%で、他の療法(活動)と対比すると農・園芸活動は多く実施される活動

*弘前大学農学生命科学部 Faculty of Agriculture and Life Science, Hirosaki University

【キーワード】農・園芸活動／園芸療法／農福連携／福祉施設／茨城県

であることがわかる。施設種別ごとの[実施中]比率は養護老人ホーム 100.0%、特別養護老人ホーム 61.5%、軽費老人ホーム 47.1%、老人デイサービスセンター33.3%、認知症高齢者グループホーム 57.1%、有料老人ホーム 18.2%、介護老人保健施設 40.0%であった。施設立地場所ごとの[実施中]比率は[周辺が農地]65.4%、[自然の中]50.0%に対し、[市街地内]36.4%、[市街地周辺]36.1%であった。

農・園芸活動の実施場所(複数回答)は、[実施中]と[以前実施]を合わせた 50 件のうち[畑]が 46.0%、[花壇]32.0%、[庭]20.0%で、[プランター]は 32.0%だった。農・園芸活動の頻度について回答が得られた施設のうち、野菜は[週 1 回以上]81.6%、花も[週 1 回以上]70.1%であった。作業内容は種まき・苗植えから水やりがほとんどであった。農・園芸活動の支援者(複数回答)は、[実施中]と[以前実施]を合わせた 50 件のうち[療法士]は 6.0%、[知識を有す職員]18.0%に対し、[職員]が 52.0%と多く、[利用者]も 26.0%で、[近隣住民]と[利用者家族]は 1 件ずつであった。

5 農・園芸活動の効果と問題点

農・園芸活動の効果と問題点を[未実施]の施設も含め他の療法(活動)と対比して回答してもらった結果が図 1,2 である。効果で[他の活動を上回る]が最多なのは[施設の美化]、次いで[利用者の生きがいがづくり]で 40% 前後であった。問題点では全設問で[他の活動より問題]が 40%を上回り[活動の快適性確保][天気に左右される]が最多で 4 分の 3 程度であった。

6 おわりに

農・園芸活動を行っている高齢者福祉施設は半数程度で、比較的多く実施されているものの、他の活動と比べ多くの問題点を有すと認識されていた。

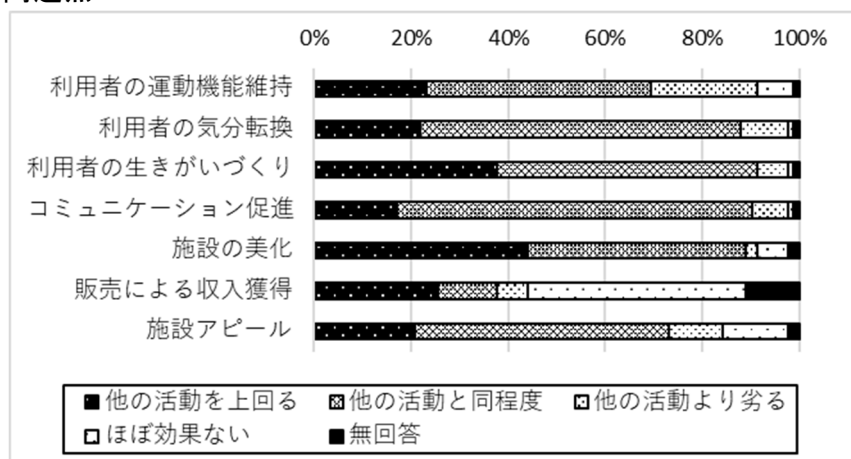


図 1 農・園芸活動の効果
Fig1 Effects of Agricultural and Horticultural Activities

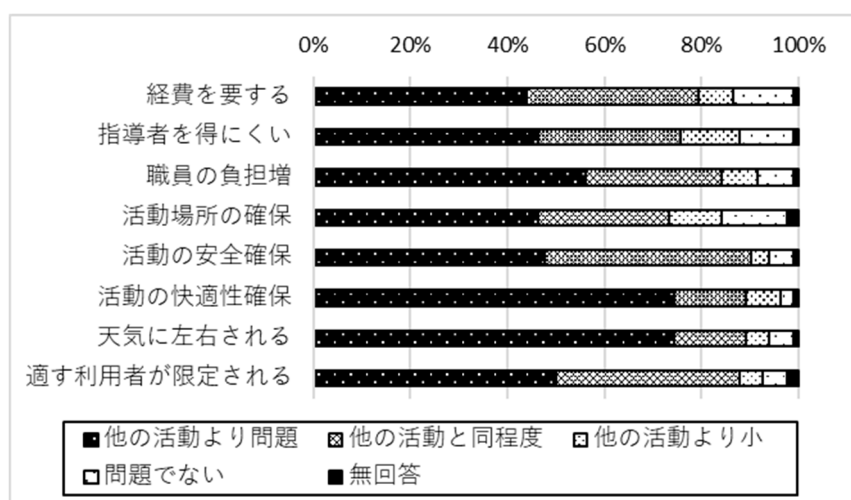


図 2 農・園芸活動の問題点
Fig2 Problems of Agricultural and Horticultural Activities

引用文献 1) 藤田他「長野県下の福祉施設および医療施設における農・園芸活動の実態と療法的活用に関する調査研究」信州大学農学部 AFP 報告, Vol.1,35-50 (2003) 2) 茨城県「保健医療福祉施設等一覧」 <https://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/koso/iji/koso/download/20170401welfare.html>